



国内初確認 スパルティナ・アングリカ

生態系への影響などが懸念される特定外来生物「スパルティナ・アングリカ」が、市内の堀川（音羽町）に生息することが昨年12月に確認されました。日本での確認は初であり、「コヒガタアシ」と命名されました。

スパルティナ・アングリカは、主に汽水域の干潟に生育し、ヨーロッパやオーストラリア、ニュージーランド、北米で確認がされています。この植物は大変侵略性が高く、干潟を陸地化してしまい、干潟の底生生物や湿地特有の植物、渡り鳥など外来生物の生態系に大きな影響を与えます。

市では拡散防止と根絶に向けて、3月の試験駆除施工を経て、4月22日・23日に人力による駆除作業を行いました。しかし、川底に生育しているものを人力で駆除することは困難だったことから、9月26日から重機で根こそぎ駆逐する作業を始めました。

今後は、護岸の亀裂に侵入した地下茎を駆除するため、モルタルなどによる補修を行います。残存した地下茎からの再生も考えられるので、関係者と協力し、監視や駆除を継続します。なお、スパルティナ・アングリカに毒性は無く、人への直接的な被害はありません。

特定外来生物の大規模駆除作戦



1 右上が日本古来のアシ、右下・左下がスパルティナ・アングリカ 2 重機を使って根から駆除しています 3 撤去した株や地下茎が流れ出ないようにするため網を張って拡大を防いでいます

英語名 スパルティナ・アングリカ
和名 コヒガタアシ（イネ科）
大きさ 茎は直径1cmほど
高さは1.5mほど
特徴 日本のアシ（画像左）に比べてスパルティナ・アングリカは葉が細い（画像右）

